

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科
2012年度 JASSO ショートビジット派遣報告書

報告者氏名

山森小夜

23年度 (入学)・編入

1. 研究課題:

中等教育開発計画下の農村児童の学校選択に関わる諸要因に関する研究

2. 渡航先:

現地滞在期間: 平成 24年 12月 10日 ~ 25年 3月 10日 (90日間)

3. 今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

今回のフィールドワークではタンザニアにおける中等教育拡充政策後の農村児童の中等教育への就学状況を明らかにすることを目的とした。調査の結果、中等学校増設政策によって定員枠に余裕ができたため、公立学校入学に必須である初等教育修了試験の通過点が2013年から引き下げられ、今まででは進学できなかった学力の生徒でも中等教育に進学できるようになっていた。中等教育への進学がしやすくなったことは生徒の通学範囲からも明らかにされた。サンプル校の学校生徒の通学範囲を SEDP 以前と以降で比較すると、遠距離から通学する生徒が減少している。中等学校が各郷に設置されるに従い、学生が各々の郷に設置された中学校に通うため一つの学校のキャッチメントエリアが縮小しつつあるからである。一方で、それに伴い、僻地の中学校数では学生数が減少していき、それに伴い補助金の数が減少しているため、人口の多い地域の学校に比べ、運営資金が不足していることが明らかにされた。またそうした資金面から由来する新設校の質を問題視し、近隣に中学校があるにも関わらず、地元の中学校に行かずに遠方の学校に転校する学生の存在が明らかにされた。

4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や長期的な展望について述べてください

本派遣ではタンザニアへは近年大きく変化した教育政策が農村地に及ぼした影響を調査しに行った。今回が初めての本調査であり、政府機関への調査許可申請手続きや、地方政府での調査許可を得るための手続きを自身で行うこととなった。その時に感じた次の調査の課題として、自分の調査目的や意義を論理的に説明する能力をさらに磨いていかなければならないと改めて感じた。各機関での調査の手続きや資料入手の際になぜそれが必要であるのかということをいろんな場面で問われた。基本的な事ではあるが、なかなかうまく伝えられないため協力が得られず、理解してもらうまで根気強く日参するなど時間がかかった。また、そうしたシステムティックな手続き的な中にも人間関係を重んじる必要があることを強く認識した。

5. 本プログラムに参加した感想や、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいか、希望をお聞かせください

本プログラムのフィールドワーク・インターンシップでは、現地の大学の教授との協定により調査へ多大なサポートをしてもらい、また自身でも実地で調査に取り組むことができたので、非常に有意義なプログラムだと思う。今後もこうした機会があればぜひ積極的に参加していきたい。

*1ページを超えないようにしてください。

* **プリントアウトして、署名を記入の上、提出してください。**

署名